

A：達成できた B：概ね達成できた C：やや達成できなかった D：達成できなかった			
学 校 教 育 目 標	重点目標(中期目標)	今年度の重点	総合評価(中間)
たくましく かしこい子どもの育成	深く考え取り組む子ども(知) ⇒ かんがえよう 思いやりのある子ども(徳) ⇒ つながろう 健康でがんばりのきく子ども(体) ⇒ やりぬこう	合い言葉 「さあ、つながろう！！」 互いに認め合える、居心地のよい学校づくり	・個に応じた支援を工夫したり、子どもたち同士でかかわる場を設定したりして、子どもたちの主体的な学びにつながる授業づくりを職員の共通の意識として取り組むことができた。 ・ICTを活用した授業づくりが各学年で進められている。 ・地域との連携や地域素材を生かした学習が今後の課題であると感じられる。地域の人材や素材を職員が発掘・共有していきたい。

分 野		評 価 項 目	評 価 の 観 点	評 価				中間評価
				A	B	C	D	
教育活動	学級経営	誰一人取り残すことのない、安心感のある学校づくりを目指して～「予測困難な時代」を、共にたくましく生き抜く子どもたちを育てるために～	どの子に対しても個別最適な学びの方法と学びの場を考え、子どもたちの個性を最大限に引き出し、主体的な学びを支援することができたか。		○			・子どもたちの主体的な学びを支援できるように授業改善や環境作りを意識して取り組んできた。 ・個の特性をとらえ、児童一人ひとりを大切にしながら、集団としてのルールを明確化し、皆が気持ちよく生活できるようにこころがけ、指導・支援にあたった。 ・自分に合ったノートの取り方ができるように、ワークシートを用意し、選択できるようにした。ノートでとる人、ワークシートで取り組む人など一人ひとりが取り組みやすいやり方で授業に参加できた。 ・一人ひとりの伝えたい気持ちが広がるよう、グループワークを取り入れた。 ・できた子やわかった子だけの授業にならないように授業を工夫し準備をすることができた。 ・定着が難しい児童や特性のある児童もいるため、個別に声をかけたり、授業のユニバーサルデザイン化を進めたりしていく。 ・様々な個性のある児童がいる中で、相手を大事にするのと同じように自分を大切にすることを伝えてきたしかし、自己肯定感が低い児童がいるので、頑張りを認め、成功体験を増やすような支援をしていく。
		地域と連携した教育課程づくり	地域の素材・人材の参画を図った活動ができたか。			○		・新しいアプリについて校内の研修会を行い、授業に取り入れられるように情報を共有した。研修したことも積極的に授業に取り入れることができた。 ・今後も、発達段階に応じて chromebook の活用の仕方を工夫し、効果的な活用を進めていく。 ・歴史講演会や生活科の活動で地域の人や場所とのつながりを作ることができた。しかし、地域との関わり、地域素材を知ったりふれあったりする機会をさらに増やしていきたい。
	教育課程	chromebook や ICT 機器の活用	chromebook や ICT 機器を活用した授業づくりに取り組むことができたか。		○			
	かんがえよう	最後まで話を聞く	発表者の考えをしっかりと聞き取るために、視線を向け、静かに聞くように指導や支援をすることができたか。		○			・話を聞くことを大切にし、意識が向けられるようにくり返し声を掛けたり指導したりしたことで、子どもたちにも少しずつ伝わっている様子がある。 ・低学年では、児童によっては先生や友だちの話を遮って話し始めてしまうことがあるので、クラス全員で意識していかれるよう継続して指導、支援していく。 ・授業の流れの中で振り返りの時間を確保するようにしているが、時間を確保するのが難しいときもあった。落ち着いて振り返りができる時間を授業の中に位置づけ確保していく。また、振り返りを深めるために振り返りの観点も明確に示していく。
		自分の考えをもち、書く	わかったこと・気がついたこと・思ったことを書く時間を確保できたか。		○			
		進んで伝え合う(発表・表現)	子どもたちが意見を出し合う時間を確保していたか。		○			
		一人ひとりが追究し、学習したことをふり返る	一人ひとりが見通しを持って追究ができるように、ねらいを明確にした授業を心がけ、学習のふり返りを終末場面に位置づけることができたか。		○			
	つなげよう	心をこめた明るく元気なあいさつ	日常的な声かけや児童会活動により、あいさつのよさを自覚させながら、積極的にあいさつをしようとするよう働きかけたか。		○			・児童会活動によって子どもたちのあいさつが活性化された。 ・あいさつを教師側からするように心がけているが、あいさつが返ってこないこともある。今後もあいさつや声かけを続けることで、あいさつへの意識を高めていく。 ・朝の時間に歌を歌う時間を位置付けたことで、歌声を響かせることができた。 ・帰りの会で友だちのよかったところの発表を継続することで友だちのよいところ目向ける機会とすることができた。 ・思いやりのある行動とはどんなことか、学級で考えたり、実践を呼びかけたりすることができた。 ・その時の行動だけでなく、その行動の背景にあるものやその行動の前のことも考えていこうと児童に伝えることで、相手を意識した生活につながるようになってきた。
		ひびく歌声	全校音楽、学年音楽、音楽会で歌う時間を設け、子どもたちが共に声を合わせて歌うよさや楽しさを感じるようにしたか。		○			
		相手の気持ちに近づいた考えや思いやりのある行動	自分や友達のよさを大切にするよう、日常の様々な事象をもとに、子どもたちに考え行動するよう働きかけたか。		○			
	きたえよう	外で元気に体を動かす	外へ出て元気に体を動かすよう、遊び時間や朝活動などで運動時間を確保しているか。	○				・休み時間だけではなく、お楽しみ会等でもみんなで体を動かす場面を取り入れた。 ・給食では残食の多い日がみられた。給食の時間を食育に時間として、給食のよさや食べ物や作っている人への感謝、栄養について学びの場を作っていく。 ・漢字については、毎日漢字5問テストを実施し、定着を図った。問題数を少なくすることで、
		食育を通して、給食をバランス良く味わって食べる	食育を通し、給食のよさや感謝を持ち、子どもたちがそれぞれの食べられる量の中でバランス良く味わって食べるよう工夫したか。		○			

		規則正しい生活	教師も子どもも授業開始や授業の終了時刻などを守るようにしたか。		○			苦手に感じている児童も取り組みやすい様子があった。算数については、個別に声を掛けたり、具体物を用いたりしながら進めたことで理解が深まる様子が見られた。
		共に鍛える	全校体育、運動会を通して、なかまとの共同の喜びや達成感を得させることができたか。（「自己評価カード」で振り返りを行う。）		○			
		基礎学力の定着	スモールステップ学習やドリル学習の継続など、基礎事項の定着を行っていたか。		○			
	生徒指導	安心・安全な学校生活	学校のきまりやマナーを守って生活するように働きかけたか。		○			・学校のきまりやマナーについては、理由も一緒に説明することで納得をして守ろうとする姿につながった。 ・授業以外の時間で、ろうかを走ったり図書館で騒いだりということもあったので、その都度、指導をしていく。 ・なぜきまりやルールがあるのが、ないとどんなことが起こるのか、子どもたちと考えることを大切にしていく。
		心を込めた掃除	「もくもくタイム」を通して、心を込めた掃除を行い、学校や教室の環境整備ができたか。		○			
学校運営	保護者との連携研修	家庭学習の充実	家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけができたか。		○			・学年だより、学級だより、授業参観後の学級懇談会等で、学年やクラスの様子を伝えるとともに、共有・連携できる場をつくった。引き続き、情報発信の機会として大切にしていく。 ・児童の気持ちに寄り添って話を聞いたり一緒に遊んだりする時間を意識的にとることができた。 ・児童理解をはじめ、教員としての自覚をもち、自分のためになること、子どもたち(保護者)のためになることを考え、研修に当たった。
		PTAやボランティアとの連携	学校はPTAやボランティアとの連携を行っているか。		○			
		児童理解・非違行為防止研修	児童理解・非違行為防止等の研修を行い、自己研鑽に努めたか。	○				